

# 医療ミス、患者死亡

## 京大病院 呼吸器にエタノール

京都市左京区)で今年二月末から三月初めにかけて、患者に装着した人工呼吸器の加湿器に、誤って蒸留水の代わりに消毒用エタノールを注入し、患者がエタノール中毒で死亡していたことがわかった。本田孔

士院長ら病院関係者が七日、記者会見で明らかにした。届け出を受けた川端署は、医療ミスによる業務上過失致死事件とみて、関係者から事情を聴いている。ごくなのは脳神経系の病気で入院していた十七歳の女性。入退院を繰り返

し二月下旬から危篤状態だった。病院側の説明によると、今月一日午後十一時ごろ、看護婦が、人工呼吸器に付けてある加湿器に注入する蒸留水を取ろうと、ベツドの下のタンクを見たと

た。女性患者は二日午後八時に死亡した。

同病院と川端署の調べでは、この患者のベツドの下には、加湿器に注入する蒸留水を入れたプラスチックのタンク(四辺入り)が置かれていた。二月二十八日午後六時ごろ、二十代の看護婦が空になったタンクを別のタンクと交換した際、誤ってエタノール入りのタンクを置いてしまった可能性が高いという。

京大病院人工呼吸器エタノール事件  
府警捜査／病院会見  
2000年3月8日 朝日新聞